



オトナのふるさと学習

# 月刊このへん だいすき

令和元年  
10月号

作 セルジュ・タカハシ

記録や形には残らず、日々失われていく地域の記憶  
いまさら人に聞けない「このへん」限定のジャンゴな話題あれこれ  
ずっと「このへん」なあなたも、最近「このへん」なあなたも、  
読めばたちまち、「このへん だいすき」に



## 日本初という説も浮上。 「このへん」が最先端なのか。 お城大好き昇太くんも来た 大鳥井山の謎にせまる。

日本初  
という説

山にお城を築く「山城」は、日本では近畿地方がその始まりとされていた。ところが、近年の研究では大鳥井山こそが日本初という説が唱えられた。

昇太くん  
も来た

笑点の司会あの巻風亭昇太師匠は本も出している本格派のお城マニア。雑誌の連載で大鳥井山を訪れている。さすがはわかってらっしゃる。

大鳥井山  
の謎

古代にこのへんを支配した清原氏の本拠地だが、朝廷の城だった雄勝城、弘田頼との関係や後三年合戦の戦場金沢頼との関係など、謎がいっぱい。

お城マニアといえば天守閣。天をつく巨大な建物に、満々と水をたたえるお堀がお約束です。そのどちらもないというのが日本のお城の始まりではないかと書かれているのが、横手市の史跡大鳥井山遺跡です。横手の市民フールの背後一帯がその範囲にあたります。奈良大学教授で歴史番組でもおなじみの千田嘉博氏は、近畿地方が発祥と言われてきた古代山城の起こりは、この大鳥井山なのだと言っています。三重の土屋と空堀がめぐる城のようすは、後三年合戦絵巻に描かれた当時の城そっくりで、平成二十二年に清原氏の遺跡として国の史跡に指定されました。二つの山を利用するのは当時の流行で、雄勝城や弘田頼との関係を解く謎の一つです。奥州藤原三代の初代藤原清衡が平泉に開いた柳の御所周辺は、大鳥井山とこままたそっくり。母と一緒に引き取られた幼い清衡の目に焼き付いた大鳥井山。平泉の地で再現しようと考えたのかもしれない。

POINT

地味に「このへん」にある大鳥井山は、日本初の山城という説もある。その城の作りかたは、平泉の柳の御所にも引き継がれていた。

